

## インターバンクの声（2014年8月12日）

足元の為替市場は、地政学的リスクの増減や米国や独の国債利回り変化にドルやユーロが神経質な反応を見せる状態が続いている。ウクライナ情勢では、ロシア軍が国境付近から撤退とのニュースが入ったと思っていたら、実際には先週までの2万人規模から倍以上となる4万5千人規模の兵力に再び増強されているらしい。ロシアはウクライナ東部の親ロシア派に対する人道支援が目的と主張しているようだが、北大西洋条約機構（NATO）のラスムセン事務総長は、ロシアがウクライナに侵攻する可能性が高まっていると述べている。プーチン大統領も簡単には危ない賭けに打って出るとは考え難いが、かねてから現場の軍を完全には掌握できていないとの噂も出ているので心配だ。さらにユーロは、先週に欧州中央銀行（ECB）の理事会が済んだばかりだと言うのに、次回以降に追加緩和に踏み切るとの見方が高まっており、1.33ドル台で何とか踏み留まっているが上値が重いのは間違いない。材料不足ではあるが週後半には米国を中心に経済指標の発表も多くなってくるので、流動性もあまり高くないこともあって、急激な相場変化には注意が必要だ。

---

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。